

## 2011 年度 小委員会活動成果報告

(2012 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	西洋建築史小委員会	主 査 名：中島 智章 就任年月：2011 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会	委員長名：伊藤 毅 主 査 名：
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	1) 若手研究者の育成・強化策について議論、検討、実行する(次年度以降継続)。 2) 国際的な研究動向をふまえ、新しい研究活動、研究領域の拡大、隣接研究分野との学際協力の可能性、および日本における西洋建築史研究のありかたについて議論、研究する(次年度以降継続)。 3) 学術的国際交流促進の方法について議論・検討し、関係する情報の流通・公開の促進を図り、小委員会としての役割を検討する(次年度以降継続)。 4) 『西洋建築史図集』のメンテナンスの一環として、「デジタルアーカイブ」と「西洋建築史用語集」の作成の必要性と可能性について議論・検討し、試行する(次年度以降継続)。	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無し 中島智章(工学院大学)、加嶋章博(摂南大学)、海老澤模奈人(東京工芸大学)、伊藤重剛(熊本大学)、伊藤大介(東海大学)、稲川直樹(中部大学)、大橋竜太(東京家政学院大学)、太記祐一(福岡大学)、西田雅嗣(京都工芸繊維大学)、星和彦(前橋工科大学)、堀賀貴(九州大学)、横手義洋(東京電機大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	西洋建築史図集改訂WG： 1) 現行の『西洋建築史図集』(1981 年の三訂版)の問題点の洗い出しと、構成、内容、体裁や出版の形態も含めた『西洋建築史図集』の新しいあり方の検討、及び執筆体制や写真等のデータの取り扱いの検討を行う。西洋建築史研究の枠組みを再検討し、20 世紀後半以降の研究成果も採り入れ、根本的な改訂に着手する。 2) 『西洋建築史用語集』の可能性についても同時に検討を行う。	
2011 年度予算	210,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	無し
講習会	無し
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	第 2 回西洋建築史若手研究者研究発表会「「建築」としての教会堂」 資料：同上 参加者 41 名
大会研究集会	無し
対外的意見表明・パブリックコメント等	無し
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	活動計画目標 1) については、第 2 回西洋建築史若手研究者研究発表会 テーマ：「建築」としての教会堂(日時：2011 年 11 月 19 日(土) 13:00～17:00、会場：建築会館)を開催した。
委員会活動の問題点・課題	1. 予算の関係で、小委員会が通信会議を主とせざるを得なく、実際に顔を合わせた会議が困難であり、活動の継続性の確保が難しい。Eメールによる委員同士の協議が多く、今後ネットによる会議も検討しなければならない。 2. シンポジウム、セミナー、研究発表会等を企画する場合、かなり早くからの計画・承認が必要であり、予算の関係で他の催し物等で来日した機を捉えて海外の

研究者に講演等をお願いしようとしても、委員会主催や後援とするにはスケジュールが合わないことが多い。ネットワークがあるにも拘らず、外国人研究者の招聘が実現できない等の問題がある。また東京在住委員の負担が大きくなりがちである。学会が協賛となるイベント開催の手続きを簡略化し、機動的な承認システムが構築されておらず、活動があっても、小委員会の正式な活動として位置づけられず、また、国際的な視野でのイベント企画も困難な状況にある。